5年 学級通信

一歩

R4 年11月2日

＜サルも人も愛した写真家＞

●祖父母学級の授業で、道徳の時間に『人と自然との共生』について考えました。NHKの「道徳ドキュメント」という番組を前半と後半に分けて見ました。

前半のあらすじ

青森県下北半島に生息するニホンザルを、20 年以上写真に収めている松岡さん。松岡さんはサル１匹１匹に名前を付け、その性格や暮らしぶりにまで詳しくなるほど「北限のサル」を愛していた。しかし、長年の保護の結果、サルの数は増え、食べ物を求めて畑を荒らすようになった。村人は生活を守るために様々な対策をとったが、効果がない。そして、ついにはサルが村人を脅し、危害を加えるようになってきた。

人が危険な目にあうようになり、とうとう村人たちは、特に悪質なサル選び、毒殺することを決めた。そして松岡さんに電話がかかってきた。サルの区別がつく松岡さんに、くじょするサルを選んでほしいというのだ。村人の生活を守るのか、サルの命を守るのか、松岡さんは選択を迫られた…。

「あなたが松岡さんだったらどうする？」

●5 年生のみんなは、　駆除に協力する…6 人　　協力しない…9 人　　となりました。
そして、どうしてそのように考えたのか、意見と理由を一生懸命に話してくれました。

協力する

人間の命も大切だ。牛や豚も食べるために命をもらっている。ルールのはんいならいい。協力しなかったら、ルールが破られて、メスや若いサルが殺されるかもしれないから。協力しなければ、村人からうらまれるかもしれない。

協力しない

サルにも命がある。命は大切だ。
人間だって動物に悪いことをしている。
殺したくない。天然記念物だから。
どっちもどっちだ。

●自分だったらどうするかを考え、話した後で後半の映像を見ました。松岡さんは駆除に協力したのです。

後半のあらすじ

悩んだ末、松岡さんは村からのお願いを受ける決断をし、サルの駆除が始まった。駆除されるサルの中には、松岡さんと 10 年以上の付き合いのある「ハナピ」というサルもいた。ハナピとの「別れ」を選んだのはほかでもない松岡さん自身だった。ひと月の駆除作戦で 13 頭のサルの命が消えた。

「駆除に関わらずにいることもできたが、それは現実から逃げることだと思った。」と松岡さんは振り返る…。

みんなはどう思ったのか。どんなことを感じたのか。生の声を聴くためにもっと時間があればなあと思いましたが、ここで時間が来てしまったので、感想を書いてもらいました。5 年生のみんなにも読んでほしいなあと思ったのでここに載せます。

「この授業で考えたこと、感じたことを書こう。」

◆「協力する」と判断した人

〇サルの命も大切だけど人の命をうばうまでいくとくじょしなければならないと思います。人びとにきがいを加えるまでいくといっしょに生きていくのはむずかしいとおもいました。

〇人間も大切だし、動物も愛している人にはしがたい２つの選たく。本当にどちらかを選ばなければいけないのでしょうか。ちがう道はないのかとても考えさせられました。

〇動物とずっといっしょにいるのはむずかしいと思いました。動物も人間も自分たちが生きていくために、命をうばわないといけないからいやだなと思いました。

〇２０年もサルのことをみてきて名前も付けるくらい好きだったのに協力するというけつ断をしてすごいなと思いました。私はサルのことを何もわからないからきょうりょくするけど、松岡さんは大好きだから協力するというけつ断をしたことを本当にすごいなと思いました。

〇動物の命をとるということはすごく勇気がいるけど、でもそれが正しいはんだんなら、しかたないんだなーと思いました。馬さしとか牛肉とか魚とかにも人間が食べるために、命をもらっているので感謝して食べたいなーと思いました。

〇松岡さんは、二十年間名前を付けるほど好きで写真をたくさんとってきたけどサルをくじょすることになり、長いつきあいのピアスまでくじょすることがつらいと思うけど、協力したことがすごいなぁと思いました。

◆「協力しない」と判断した人

〇さるもわるいことをしたけど、20 年間愛していたさるをころすなんて、ぼくは、ちょっとかなしくなるなと思った。(どうかと思う)

〇ぼくは、10 年も 20 年もつきあっているサルは、くじょされてほしくなくても、くじょされるのでかなしいです。

〇わたしだったら、協力しないけど、まつおかさんは、協力したけど、ほんとはめっちゃかなしいとか、さみしいとか思っていたんだろうなぁと思いました。大事な人とか、動物とかがいなくなったりすると、とてもかなしいんだなぁと思いました。

〇サルとの長いつきあいなのに、町の人のために協力したのはすごいなと思いました。

〇くじょされているサルは、何をされるか分からなくて、かってにころされるのがかわいそうと思いました。

〇松岡さんは、協力すると言っていたけど心の中ではほかくしているサルのことをみてかなしいし、だるいしきついだろうなと思いました。いままで一緒にいたり、写真をとったりしていたのに、そんなかんたんに良いとは言わないと思います。

〇動物との別れはむずかしくて、ちょっと悲しいのだなあと思いました。そして、松岡さんは自分より地いきの人のこと考えてけつだんしていたのですごくて私には、そうできないだろうなと思いました。

〇松岡さんは、サルに対してずっとやさしくせっしていたり、愛していたけど、サルたちはせっかく育てた野菜などを食べたりあらしたりしてめいわくをかけていたから、他の人たちの気持ちを考えて、協力したのがすごいなと思いました。

〇協力した松岡さんは重い決断をして、でも、笑っていられてすごいなと思いました。

★

下北半島のニホンザルの問題は、今もまだ続いています。様々な取り組みの成果から、平成13年の農作物被害額は約750万円だったそうですが、令和2年度は84万円まで減少しているそうです。

しかし、これでサルが畑を荒らしたり人に危害を加えたりすることが全て無くなるとは、私は思えません。

モンキードックのパトロールを強化したり新しいワナを作ったり、いたずらなサルだけを毒殺したとしても，ワナをかいくぐる知恵をもった新しいいたずらサルが出てくるでしょう。

みなさんの話を聞いたり感想を読んだりしていて、改めて人と自然との共存は簡単にはいかないんだなあと思いました。みなさんの身近にもそういう問題があるかもしれません。また，探してみて下さい。何か見つけたら自学ノート（や日記）に書いてきてください。また紹介したいと思います。